

第4回日本安全運転・医療研究会の報告

小林 康孝

福井医療大学大学院保健医療学研究科

第4回日本安全運転・医療研究会が「住み慣れた地域での社会参加を目指して」というテーマで、2019年12月13日（金）～14日（土）、福井県県民ホール・福井市地域交流プラザで開催されました。積雪による混乱を回避するため、例年より約1ヵ月早めの開催となりましたが、参加者は合計391人で、医師49人、PT13人、OT182人、ST37人、看護師10人、教習所関連9人、学生17人、その他74人と各方面から、そして北は北海道から南は沖縄まで、多くの地域よりご参加いただきました。演題数も口述21題、ポスター55題という目標を上回る数が集まり、演題締め切りを延ばすことなく済みました。

特別講演1では、内閣府の近藤恭子政策統括官より、超高齢化社会における交通安全対策に関して、また、特別講演2では、筑波大学の稲垣敏之副学長より、運転支援と自動運転に関して、各々御講演いただきました。また、教育講演では、運転者の覚醒度、認知症者運転、積雪環境技術、高齢運転者対策という、現在の日本および福井県が抱える問題に関するテーマで、いずれも第一線でご活躍の先生方よりお話しいただきました。さらに地域トピックスでは永平寺町と富山市における大変興味深い取り組みの紹介を、そしてシンポジウムでは本研究会参加者で最も多い作業療法士の方々を中心に、障害者運転支援について議論いただきました。いずれも各分野の多くの皆様からご好評をいただいております。

これまでの大都市開催とは異なり、初めて中核市での開催となりましたので、不安もありましたが、盛会のうちに無事終了することが出来ました。ご協力いただきました皆様方には、心より感謝申し上げます。

次回第5回は、COVID-19の影響で時期は延期となっておりますが、東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科の渡邊 修先生が大会長となり開催されます。また、前回の幹事・世話人会で、これまでの開催

状況から、学会化が可能と判断され、第6回よりの学会化をめざして準備が開始されております。今後も本会が、高齢者や障害をお持ちの方々が安心して社会生活を営めるための一助となることを祈念しております。

